

和歌山県立医科大学保健看護学部で保健看護実習 C(老年)に参加された皆さんへ

和歌山県立医科大学保健看護学部では、以下の疫学研究を実施しています。ここにご説明するのは、過去の保健看護実習 C(老年)で調査した実習前後アンケート結果のデータを振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

コロナ禍における形態の異なる臨地実習前後の看護学生の自己効力感の比較

2. 研究責任者

和歌山県立医科大学保健看護学部 助教 森下 美佳

3. 研究の目的

看護基礎教育課程において、臨地実習は重要な位置づけにあり、効果的な学びの獲得に繋げるために自己効力感が関連するとされています。新型コロナウイルス感染症の拡大により臨地実習の機会が減少し、学習環境や人間関係形成の変化などが自己効力感に影響することが指摘されていますが、その現状は明らかにされていません。そこで、本研究はコロナ禍で実施した実習形態の異なる臨地実習前後の看護学生の自己効力感を明らかにすることを目的とします。

4. 研究の概要

(1) 対象となる方

2013 年から 2022 年に在籍した和歌山県立医科大学保健看護学部生で、保健看護実習 C(老年)を終了した方

(2) 利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、看護学生の性別、年齢、家族構成、高齢者との同居経験、高齢者との関わり、認知症高齢者との関わり、受け持ち患者の年齢、性別、寝たきり度、要介護度、コミュニケーション障害の有無、認知症の有無、「看護学生の臨地実習自己効力感」に関する情報です。

(3) 方法

実習時期の 2 群に分類し、性別、年齢、家族構成、高齢者との同居経験、高齢者との関わり、認知症高齢者との関わり、受け持ち患者の年齢、性別、寝たきり度、要介護度、コミュニケーション障害の有無、認知症の有無について比較します。この解析から、全体および各群の特徴を把握し、実習時期で看護学生の臨地実習自己効力感得点と下位因子を解析します。

5. 個人情報の取扱い

この研究に利用するデータからは、個人を特定できる情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も個人情報が公表されることはありません。鍵のかかるロッカーなどで論文等の発表から 10 年間保存し、その後廃棄します。

6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

このような後ろ向き観察研究は、医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、ご自身の情報が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させて頂きます。なお、研究協力を拒否された場合でも、不利益を被ることは一切ありません。また、研究に関する資料をホームページ上で閲覧できるようにいたします。研究参加後に同意を撤回することも可能です。ただし、全体としてデータ解析を行った後では、撤回が難しい場合があることをご理解ください。

7. 資金源及び利益相反等について

開示すべき COI 関係にある企業等はありません。

8. 問い合わせ先

和歌山市三葛 580

和歌山県立医科大学保健看護学部 助教 森下美佳

TEL：073-446-6700

E-mail：morimika@wakayama-med.ac.jp